

請願「中央公園グラウンド改修計画について意見を聞く機会を設けることと
多目的エリアの人工芝化見直しを求めることについて」 趣旨説明

「中央公園改修に市民の声を届ける会」の深澤です。私の所属する小平・環境の会は長年プラスチックごみの削減などに取り組んできました。2019 年に小川西グラウンドが人工芝化される計画を知った時には、人工芝はマイクロプラスチックの大きな発生源になると指摘し、2022 年には人工芝にしないよう求める要望書を市長に提出しました。その後中央公園グラウンドを人工芝にする計画が明らかとなり、これまでパブリックコメントやヒアリング、文化スポーツ課との交渉で、何度も人工芝の問題点を訴え、見直しを求めて来ました。

環境の観点から人工芝は避けるべきものと考えますが、サッカーフィールドの利用者からは人工芝にしてほしいという強い要望が寄せられているそうです。「文化スポーツ推進計画」や「中央公園グラウンドの改修に関する基本的な方向性」を策定する過程では、曲がりなりにもパブコメやヒアリングで市民の意見が聞かれています。しかし、そこでは市からの提案としても、市民からの要望としても、現在野球場の部分、多目的エリアの人工芝化の話は一切出ていません。

昨年、2024 年 12 月議会で小平市南西部の公園・運動施設の指定管理者が選定され、市のホームページにその「提案概要」が掲載されましたが、「多目的エリアの人工芝」というのはそこで初めて登場した言葉です。市民で気がついた人はほとんどいなかったでしょう。一般の市民がその説明を受けたのは、2025 年 2 月 1 日の中央公園体育館での公園改修についての説明会が初めてでした。詰めかけた市民からは、人工芝化に対する反対意見、グラウンドをこれまでのように自由に使えるようになることについての懸念の声が多く上がり、終了予定時刻を大幅に延長する事態となりました。説明会の最後には、市の担当者から、グラウンドの使用方法などについて今後も市民の意見を聞きたいという発言もありました。

ところがその後の 3 月議会では、市は「(今年度の) 基本設計に市民からの意見を反映することは考えていない」と答弁。4 月に「中央公園グラウンドと多目的エリアの人工芝化に関する意見交換会を開催するよう求める」要望書を提出した市民有志と、市の担当課の話し合いがもたれましたが、市の回答は「多目的エリアの人工芝化の見直しは難しい」というもので、説明会を再度開くことは約束してもらえませんでした。多目的エリアの人工芝化、グラウンドの利用制限についてほとんどの市民が知らないままに、指定管理者が決まったから、その設計案に従うしかないというのはあまりに非民主的ではないでしょうか。そのため、私たちはこの請願提出に至りました。請願署名を集める中で、グラウンドが自由に使えることを惜しみ、人工芝による環境や人への影響を心配する声が多く寄せられています。

提出資料の「説明ポイント」に書きましたように、人工芝自体に多くの問題があります。マイクロプラスチックの発生源であること、流出防止のための排水溝フィルターがほとんど役に立たないこと、人工芝の再利用がさらなる環境破壊を起こすこと、熱中症や怪我の危険があること、多目的エリアに設置予定のバイオターフも、生分解性がなくマイクロプラスチックになってしまうこと、などです。このような人工芝はできるだけ少なくしてほしい、というのが私たちの願いです。市民からの要望もないのに、多目的エリアにまで人工芝を広げることは、あまりに環境問題への配慮が足りない、これまで人工芝のデメリットを繰り返し伝えてきた市民の意見を軽視していると言わざるを得ません。

そこで私たちは請願事項で次のように求めています。

- 1 中央公園グラウンド改修計画、特に市民の自由な利用の可能性、多目的エリアの人工芝化について、現段階の詳細な説明を行い、広く市民の意見を聞く機会を早急に設け、市民の意見を反映するよう努めてください。
- 2 中央公園グラウンドに導入予定の人工芝は、マイクロプラスチックの大きな発生源であり、環境や人体に有害な物質も含まれていることから、少なくとも多目的エリアについては人工芝ではなく、環境や人の健康に優しい天然芝や草地にすることを検討してください。

この多目的エリアの予定地では、環境グリーンフェスティバルが開かれ、環境の会もマイクロプラスチックの出ないヘチマスポンジなどを販売してきました。その場所に人工芝を敷くことは、環境グリーンフェスティバルの趣旨にもそぐわないと考えます。どうか真摯にご審議くださいますようお願いいたします。